



一般社団法人 樹木医甚兵衛

©2022.10



植物を迎えるときに考えてほしい3つの「どんな？」があります。

## 【どんな植物を？】

その植物がどんな性質を持ち、どのような準備や管理作業を必要とするのかを把握しておかなければ、健全な状態で維持していくことは難しいでしょう。

人為的な緑化において、「植物は放っておいても勝手に育つ」という考えは大きな間違いです。

## 【どんな場所に？】

植栽予定地が都市なのか農村なのか、周辺の環境、植栽基盤や気候などの条件によって、植栽に適した種と必要な管理は変わります。

植物はその美しさや雄大さで私たちに良い影響を与えてくれますが、同時に野生化による競合・淘汰や、繁殖干渉、遺伝的攪乱など、負の影響も確認されています。

自らの行いが周囲に与える影響について、きちんと検討して配慮することが必要です。

## 【どんな目的で？】

植物を植えることは、それ自体を目的とするのは大きな間違いです。それを活用してどのような地域にしたいのか？どのような環境を作りたいのか？ということを考える必要があります。

植栽の先に達成したい未来を具体的に想像し、それを実現させるために、継続的に努力する必要があります。

植栽が目的となってしまい責任ある管理が行われず、樹勢が衰退したまま放置されたり枯死したまま残置される結果を私たちはこれまでも多く目にしてきました。そうなれば植栽は無駄になり、逆効果になります。

植物を扱う者には自然に対する謙虚な心が求められるということを、どうか忘れないでください。



クマノザクラ (*Cerasus kumanoensis*)は2018年に新種として報告された野生のサクラです。

紀伊半島南部の限られた地域にのみ自生することが確認されています。

‘染井吉野’よりも開花時期が早く、淡紅色の花弁が美しいことが特徴です。  
枝ぶりが繊細で樹形や紅葉も美しく、栽培品種と比較しても劣らない鑑賞価値があります。

ウサギやシカなどの獣害や、造林・緑化など的人為的な植栽の影響により、  
長期的に自生個体が減少していくことが懸念されています。

肥培管理により、平均では5年程度（最短で3年）で開花していますが、お花見をするような状態になるには10-15年程度の期間が必要になると想定されます。



## 【紀南地方に自生するサクラ】

紀南地域には、もともとクマノザクラとヤマザクラの2種のサクラのみが自生していたと考えられています。そこへ人の手によってに様々なサクラが持ち込まれています。

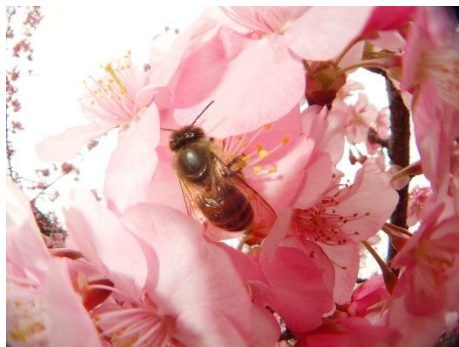
## 【外来のサクラ】

外来種というとは、国外から持ち込まれた生物種を想像する方が多いですが、‘染井吉野’、‘河津桜’、オオシマザクラなど、もともと地域にあった2種以外のすべてのサクラは、紀南地域から見ると外来のサクラとなります。また、遺伝的に地域外由来のヤマザクラも、外来のサクラと考えるべきサクラです。



## 【ポリネーター】

ポリネーターとは植物が受粉を行う際に花粉を媒介する生物のことです。花粉媒介者や送粉者と呼ぶこともあります。紀南地方でサクラの花粉を媒介する生物は、ニホンミツバチとマルハナバチが中心であることを確認しています。またこれらのハチが活動する距離は、2-3kmだと考えられています。



## 【サクラの種子散布様式】

サクラの果実(種子)は重力や風の力で落下した後、地面を転がったり水流に流されて移動することもあります。イタチやタヌキなどに食べられ、糞として排泄されることで散布されることも確認されています。サクラの繁殖には、自然界の様々な要因が複雑に関係しています。



外来のサクラは、自生種の「競合」となり自生種を「淘汰」してしまうという問題が確認されています。そして目には見えないところで、交雑して遺伝的に別の種へと変化させてしまう「遺伝的攪乱」、自生種同士の正常な受粉を阻害してしまう「繁殖干渉」などの悪影響を引き起こすことが知られています。

ここで紹介した外来のサクラの問題は、自生のサクラを減少させる可能性がある大きな懸念材料だと考えています。しかし現実として今すぐにその要因を取り除くことは極めて困難です。



ポリネーターや、種子散布を考慮したうえで、自生のサクラと外来のサクラとの安全な離隔距離を考えると、紀南地方において在来のサクラの保護を第一に考えた確実な方法は、この地域から外来のサクラを取り除くことです。しかしそれは現実的ではありません。これまでにあまりに多くの外来のサクラが地域内に持ち込まれていますし、その影響はすでに山の中で確認されています。私たち人間は自然保護と同時に経済性という課題も解決しなくてはなりません。

ただ、困難であるからといって事実から目をそらすのではなく、問題をきちんと把握し、将来的に対処していこうという姿勢が大切だと考えています。樹木医甚兵衛は、クマノザクラという存在を通じて多くの人がそういった現実を知り、広く問題を周知させるための機会となればという思いから植栽を行っています。



そんな中でクマノザクラを植えた皆さんがやらなければならない最も大切なことは、最後まで責任をもって植物の維持管理をするということです。そしてこの問題を知り、今後どうしていくべきなのかを一緒に考えてほしいと願っています。



自然環境の保全を目的に植栽を行う場合には言うまでもありませんが、景観や観光などの他の目的であったとしても、周囲の環境を無視して植物を扱うことは許されるべきではありません。

植栽する苗木については、きちんと選定を行う必要があります。少なくともインターネットなどで販売されている苗の扱いには注意が必要であり、管理のできない場所に植えるなどの行為は避けるべきです。種(species)だけではなく、産地などの遺伝的な情報まで把握する必要があります。同種であっても国外由来であったり、生殖的に隔離された地域が産地であることがあることを考慮しなくてははいけません。一度発芽した植物は、自らの意思で移動することはないのです。

植栽予定地の近くに、開花時期の重複する外来のサクラがある場合には、あらかじめ移植や伐採などの対策を行い、十分な離隔距離を確保することが望ましいと考えています。十分な離隔距離は、主要なポリネーターの活動距離である3kmをひとつの目安とするのが適切です。

地方において自生のサクラの保全を最優先に考えた場合、地域に外来のサクラを持ち込まないことや、すでに存在している外来のサクラを撤去することが最も理想的です。しかし現実には、外来のサクラであっても文化的に重要であったり、このような問題が知られていなかったり、軽んじられ経済性が優先されるなどして無視される場合がほとんどです。

そのような場合であっても、諦めて何もしないことが正しいとは考えていません。まずはこのような問題を理解して正確に現状を把握し、将来に向けてきちんと考えることが大切です。

そして植栽した樹木について、それぞれが責任をもって維持管理作業を行うこと。それを長期にわたり継続し行くことが何よりも重要です。

最近では多くの団体が「自然環境の保護」をうたい、植樹をPRやイメージアップの道具として使っていますが、このようなこまやかな配慮ができれば、自然環境を保全することにはなり得ないのです。植樹の本数や規模を競うのではなく、本質に目を向けることが大切です。



植栽年												翌年											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
土壌改良					土寄せ							(土寄せ)											
植栽																							
支柱			再結束																				
(灌水)												(灌水)											
						剪定												剪定					
施肥												施肥						施肥					
病虫害防除												病虫害防除						病虫害防除					

2年後												3年後											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
(土寄せ)												(土寄せ)											
(再結束)												支柱撤去											
(灌水)												(灌水)											
剪定												剪定						剪定					
施肥												施肥						施肥					
病虫害防除												病虫害防除						病虫害防除					
												開花											

### 【維持管理作業の流れ】

適切な管理作業を続けると、植栽から1-3年後には開花するようになります。  
 根が活着し十分な支持力が得られ、幹の肥大生長が確認されると、支柱を撤去することができます。  
 施肥と剪定などの基本的な維持管理作業は、樹木が存在し続ける限り継続する必要があります。



## 【灌水】

植栽後すぐは根の活着が不十分であるため、水やりが必要になる場合があります。特に植栽後最初に訪れる夏には注意が必要です。

## 【剪定】

植栽後、根が活着すると、芽が伸長成長を始めます。幼木の期間は枝の先端が急激に伸びる徒長枝が多くなる傾向にあります。それを放置すると、風圧による悪影響が大きくなることと樹形が乱されることが懸念されます。しかし剪定作業を行うことによって人為的に伸び方をコントロールし、これを防ぐことが可能です。

成長点を切り詰めると、側芽の生育が促進され、風を受け流しやすいバランスの整った樹形に導くことができます。順調な生育を見せるクマノザクラがこまめな剪定と支柱の再結束を必要としなくなるまでに要する期間は、1-3年が目安となっています。



【剪定前】



【剪定後】





## 【土寄せ】

土壤改良や植栽時の掘削によってほぐされた土壤は、降雨によって流失しやすくなり、自重によって徐々に沈下します。

植物にとって重要な根系が露出すると生育不良となるため、土寄せ(増し土)を行い、これを補う必要があります。



## 【施肥】

管理された植栽地は森林の土壤とは異なり、落葉落枝が取り除かれて堆積・分解されることがありません。

施肥を行うことによって、植物の生育にとって必要な養分やミネラル分を人為的に補うことが重要です。



## 【再結束】

根系が発達し幹が肥大して十分な支持力が得られるまで、支柱や結束を調整しながら樹体を支え、補助する必要があります。

幼木の期間は樹木の生育が旺盛であるため、結束部の食込み状態を確認しながらこまめに結束しなおすことが必要です。



長追母樹林 (植栽後2年7か月経過)

## 【必要な維持管理】

良好な状態を維持するためには、こまかな目配りが必要とされます。植栽後1-2年の間は、定期的な観察と、土寄せ・施肥・剪定・再結束を継続的に施工することが必要です。

御自身での管理が心配な場合は、樹木医甚兵衛にお任せください。個別にお見積りいたします。

✉ [jumokui.jimbe@gmail.com](mailto:jumokui.jimbe@gmail.com)

URL <https://jumokuijimbe.com>



一回にかかる料金の目安	
軽作業(半日程度)	18,000円～
肥料代	1,620円～
支柱資材代	1,540円～
用土代	750円～
出張旅費	50円/1km～
計	23,000円～

一年にかかる料金の目安	
一回あたり	23,000円～
	×2年回
計	46,000円～

※資材代は一本当たりの金額です。  
※金額は税抜き価格です。

現場と樹木の状況に合わせて、樹木医甚兵衛が適切な維持管理をサポートいたします。



植栽は、「終わり」ではなく「始まり」です。  
責任をもって世話をし、きれいな花を咲かせましょう。



お問い合わせは

©一般社団法人 樹木医甚兵衛



✉ : [jumokui.jimbe@gmail.com](mailto:jumokui.jimbe@gmail.com)

URL : <https://jumokuijimbe.com>

一般社団法人 樹木医甚兵衛

©2022.10